

2020年 JA三次酒米こよみ

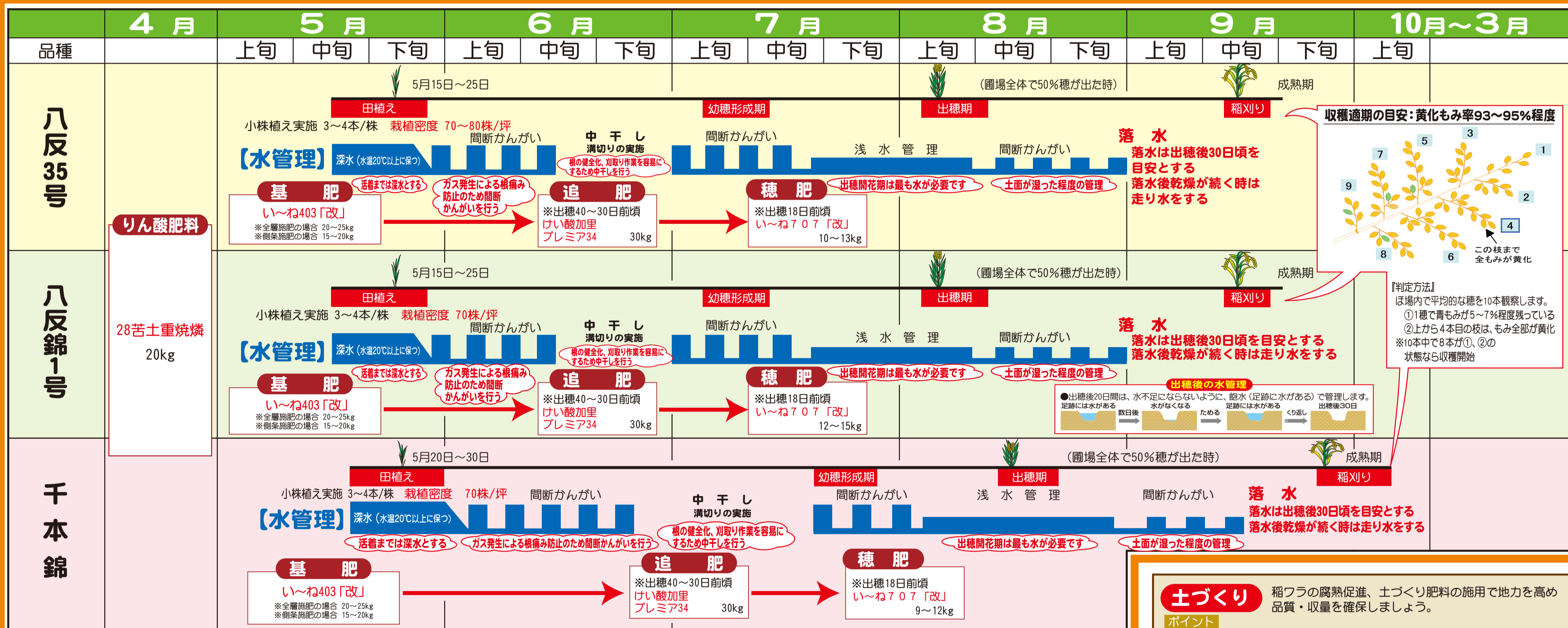
米品質向上のポイント

- ① 堆肥・土づくり肥料を施用し地力を高める
- ② 適正な植付本数の実施（過剰生育の抑制）
- ③ 活着後の間断かんがいの実施
- ④ 中干しの実施（過剰分けつ抑制）
- ⑤ 早期落水をし（出穂後30日を目標。乾燥が続く時は、走り水の実施）

植付枚数の目安

株間(cm)	mあたり株数(株)	坪当たり株数(株)	箱数(箱/10a)
15	22	70	20

生産基準と管理(使用量10a当たりの目安)



病害虫防除

薬剤防除	粒剤防除	液剤防除	随時防除(補助剤)
粉剤防除 テクードCフロアブル 200倍液 24時間浸漬 ダコレート水和剤 500倍液 9チカエフM液剤 1000倍液 いもち病ばか苗病もみ枯れ細菌病苗立枯病	種子消毒 テクードCフロアブル 200倍液 24時間浸漬 ダコレート水和剤 500倍液 9チカエフM液剤 1000倍液 いもち病ばか苗病もみ枯れ細菌病苗立枯病	田植時(苗箱施用) アイゲットプリン粒剤10 ツインターボフルテラ箱粒剤 フルター-ボ箱粒剤	育苗箱(播種時〜緑化期) ダコレート水和剤 800〜1200倍液 白土、播種1日後まで 苗立枯病(リンゴスズメ、トコジマカ、トコジマカ)

肥料成分表(%)

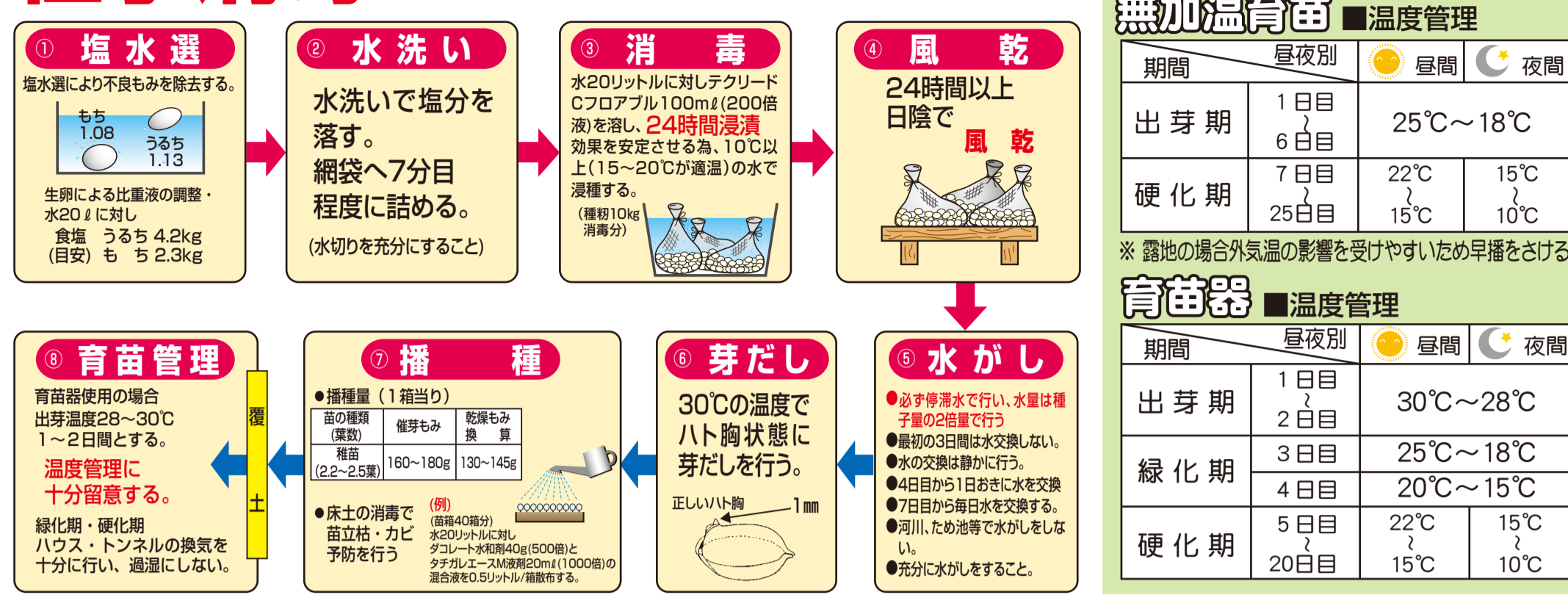
肥料名	N(窒素)	P(リン酸)	K(加里)	有機30%	い〜ね5%
三次きんざい米基肥	1.0	1.4	1.2		
い〜ね403改	1.4	1.0	1.3		
早生コシ364	1.3	1.6	1.4		
早生い〜ね755	1.7	1.5	1.5		
ネオベースト1号	1.2	1.2	1.2		
ピカイチ302	2.3	1.0	1.2		
中生い〜ね502	2.5	1.0	1.2		
い〜ね403改	0	0	2.0		
い〜ね407改	1.7	0	1.7		
ネオベーストSR-502	1.5	1.0	1.2		

農業の使用上の注意 ●使用前には、必ずラベルを確認し使用量・使用回数・使用時期等を守りましょう ●他の作物へ農薬が飛散しないよう、散布には注意しましょう

水がしと播種日の目安(例)

品種	水がし開始時期	播種時期	田植時期
八反35号	4月10日	4月20日	5月15日
八反錦1号	4月10日	4月20日	5月15日
千本錦	4月20日	4月30日	5月20日

種子消毒



育苗温度管理の目安

無加温育苗 温度管理

期間	昼夜別	昼間	夜間
出芽期	1日目 6日目	25℃~18℃	
硬化期	7日目 25日目	22℃ 15℃	15℃ 10℃

育苗器 温度管理

期間	昼夜別	昼間	夜間
出芽期	1日目 2日目	30℃~28℃	
緑化期	3日目 4日目	25℃~18℃ 20℃~15℃	
硬化期	5日目 20日目	22℃ 15℃	15℃ 10℃

除草剤散布前後のポイント

除草剤の仕組み

一般的に水田に散布された除草剤はいったん水に溶けて3~4日かけて土壌に吸着され、土壌表面に薬剤の「処理層」(およそ土壌表面から3cm程度の間)を作り、雑草の成長点に処理層に接触し雑草を枯らしたり、発芽させない仕組みです。

使用上の留意点

- 代かきは丁寧に均平を保つこと。土壌が均平でないと深い所に薬剤が多く溜まり、薬害の原因になります。また、湛水深が不足すると効果ムラの原因となります。代かきを丁寧に均平に行い、畦の補強をして水深をしっかりと保てる圃場環境の整備をしましょう。
- 雑草発生前の早めの散布を行いましょう!
- 除草剤散布後は、3~4日間は湛水状態を保ち補植は行わない。効果を安定させるため、3~4日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水や掛け流しを避けましょう。除草剤散布後の補植は水田内を歩行することにより処理層を壊し、効果が低下する原因となります。また、補植した苗の根が直接処理層に触れるため、薬害の原因となります。

この大きさは防除は難しい!

除草剤散布前に十分な湛水深(3cm~5cm)を確認した後、散布しましょう。

除草剤の使い方

除草剤使用時期	田植前後日数	田植	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
低コスト(一発処理)			ジェイフレンド(1キロ粒剤)										ジェイフレンド(フロアブル・ジャンボ)					※雑草の大きさを確認し適期に散布しましょう。									
標準(体系処理)			サキドリEW又はエリジャンジャンボ										サラブレッドKAI(1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ)					ゼータタイガー(1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ)									
高機能(体系処理) 難防除雑草対策			テマカットフロアブル										ゼータタイガー(1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ)														

低コスト(一発処理)

品名	使用量(10a)	使用時期
ジェイフレンド(1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ)	1kg・500mℓ・400g	1キロ粒剤 移植後〜ノビエ3葉期まで(移植後30日まで) フロアブル・ジャンボ 移植後5日〜ノビエ3葉期まで(移植後30日まで)

標準(体系処理)

品名	使用量(10a)	使用時期
サキドリEW	500mℓ	移植後〜移植前7日又は、移植直後〜ノビエ1葉期まで(移植後30日まで)
エリジャンジャンボ	300g	移植後〜移植前7日又は、移植直後〜ノビエ1葉期まで(移植後30日まで)
サラブレッドKAI(1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ)	1kg・500mℓ・400g	移植直後〜ノビエ2.5葉期まで(移植後30日まで)

高機能(体系処理)

品名	使用量(10a)	使用時期
テマカットフロアブル	500mℓ	移植後〜移植前7日又は、移植直後〜ノビエ1葉期まで(移植後30日まで)
ゼータタイガー(1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ)	1kg・500mℓ・300g	1キロ粒剤 移植後〜ノビエ3葉期まで(移植後30日まで) フロアブル・ジャンボ 移植後3日〜ノビエ3葉期まで(移植後30日まで)

後期除草剤(残草対策)

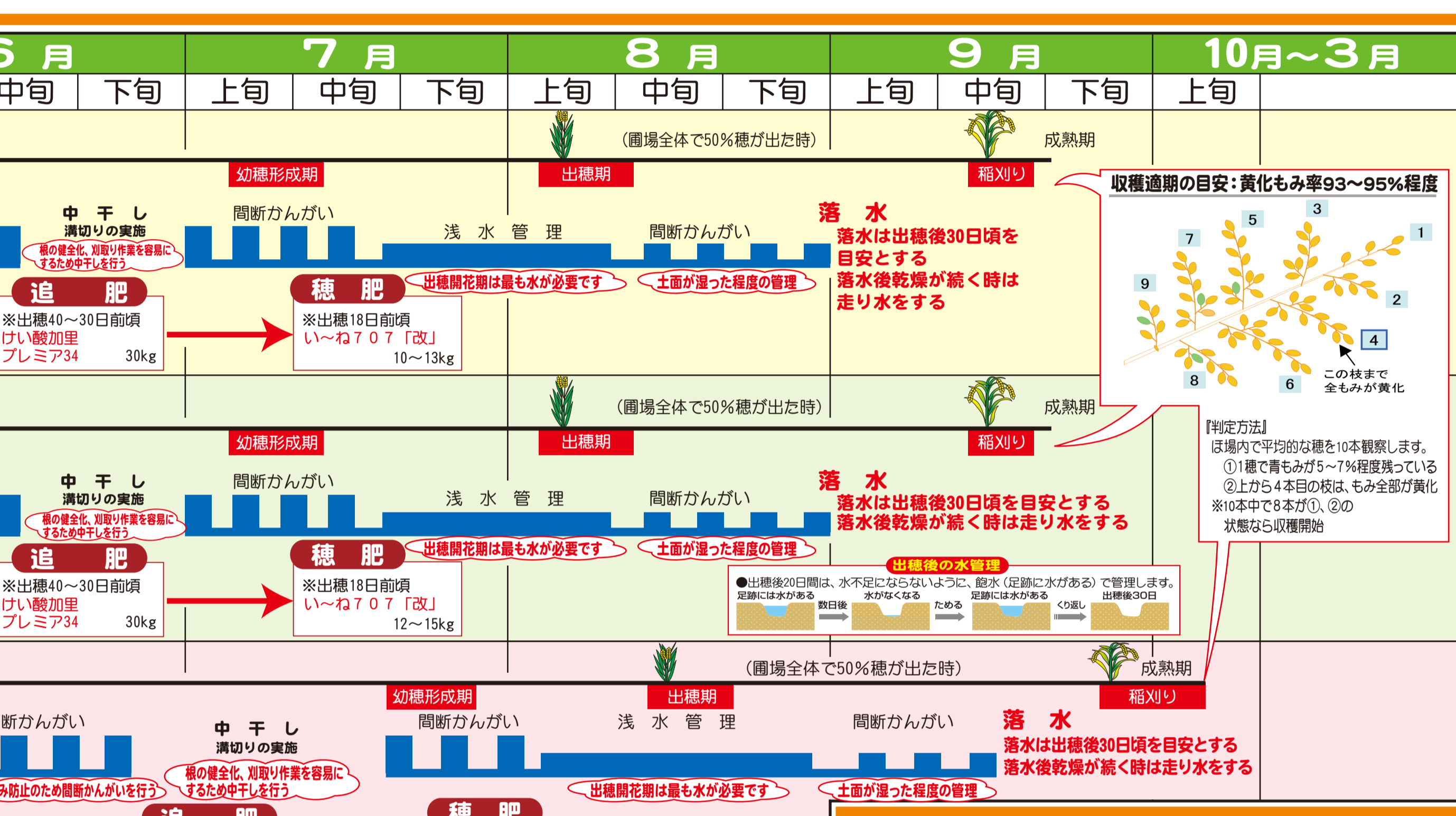
品名	使用量(10a)	使用時期	使用方法
トドMF1キロ粒剤	1kg	移植後14日〜ノビエ5葉期(収穫前50日まで)	湛水散布又は無人航空機による散布
トドMF乳剤	200mℓ	移植後14日〜ノビエ7葉期(収穫前50日まで)	湛水散布又は落水散布
ヒエクリン豆つぼ250	250g	移植後15日〜ノビエ4葉期(収穫前45日まで)	湛水散布、湛水噴霧散布又は無人航空機による散布
クリンチャー・ジャンボ	1袋20ケ(1kg)	移植後7日〜ノビエ4葉期(収穫前30日まで)	水田に小包(パック)のまま投入
バサグラン粒剤	3~4kg	移植後15日〜55日(収穫前60日まで)	落水散布又はごく浅く湛水して散布
サンパンチ1キロ粒剤	1kg	移植後15日〜ノビエ3.5葉期(収穫前60日まで)	湛水散布又は無人航空機による散布
アトリ豆つぼ250	250g	移植後20日(稲5葉期以降)〜ノビエ4葉期(収穫前45日まで)	湛水散布又は無人航空機による散布
クリンチャーバスマE液剤	薬量1000mℓ(100倍液)	移植後15日〜ノビエ5葉期(収穫前50日まで)	落水散布又はごく浅く湛水して散布
クサナム・イボクサが残った場合	薬量50mℓ~100mℓ(2000~1000倍液)	移植後30日〜(クサナムの草丈40cm、イボクサの草丈30cmまで)(収穫60日前まで)	落水散布又はごく浅く湛水して散布

水田からの濁水流出による河川等の汚濁防止について

水田からの濁り水が河川に流出すると、農業者にとって大切な水田の土や水などを失うだけでなく、河川が濁り、水生生物の餌場である岩ゴケの生育を阻害するなど、環境にも負荷をかけることとなります。次のことを心がけ、環境にやさしい農業に取り組みしましょう。

3つのポイント

- 畦畔からの水漏れを防止しましょう!
- 代かき・田植時に排水口から漏水がないよう確認しましょう!
- 浅水で代かきし、田植前の落水を行わないようにしましょう!



土づくり

稲ワラの腐熟促進、土づくり肥料の施用で地力を高め品質・収量を確保しましょう。

ポイント

- 稲ワラの腐熟促進
 - 秋〜春期(稲刈り後〜3月)に稲わら腐熟促進剤を施用し、耕運する。
 - 腐熟促進剤: フラクサル粒剤 15kg、又はアグリ革命(細粒) 2kg
- 土づくり肥料の施用
 - 堆肥 1000kg
 - ミネラルG又はケイカル 毎年施用の場合 120kg、隔年施用の場合 200kg

効果

- ケイ酸分の補給
- 田の湧きによる赤枯れ(根腐れ)防止
- 倒伏の軽減
- 病害虫防除に対する抵抗性の向上
- 根腐れ、秋落ちの防止
- 登熟の向上

■穂ばらみ期(出穂10~7日前頃)

いもち病、紋枯病、フカカ病、コブノメイガ	イモチン・カムシ類	50g/箱	緑化期〜田植当日
イモチン・カムシ類	アミノ酸加里	30kg	は種時(覆土前)〜田植当日

■出穂期(圃場全体で50%穂が出た時)

いもち病、紋枯病、フカカ病、カムシ類	イモチン・カムシ類	50g/箱	田植3日前〜田植当日
イモチン・カムシ類	アミノ酸加里	30kg	田植当日

■傾穂期(乳熟期頃)

いもち病、紋枯病、フカカ病	イモチン・カムシ類	50g/箱	田植3日前〜田植当日
イモチン・カムシ類	アミノ酸加里	30kg	田植当日

倒伏軽減

清刈り、中干し、間断かんがいで根を健全に保ち、節間の伸長を抑えるとともに、倒伏が予想される場合は倒伏軽減剤の使用も効果的です。

倒伏軽減剤使用時期の目安

品種	施用時期	適正葉色値	肥料名	施用量
八反35号	出穂18日前	3.5~4.0	い〜ね403改	10~13kg
八反錦1号	出穂18日前	3.0~3.5	い〜ね403改	12~15kg
千本錦	出穂18日前	3.5~4.0	い〜ね403改	9~12kg

※傾穂期は原則1回ですが、出穂の10日前に葉色が八反錦1号で葉色3.0以下、八反35号・千本錦で葉色3.5以下の場合は、い〜ね403改を10aあたり10kg程度施用する。※葉色が適正葉色値より濃い場合は適正葉色になるまで様子を見て施用判断してください。

中干し(70株1坪の場合)

品種	有効茎数の目安
八反35号	16~18本/株
八反錦1号	20~22本/株
千本錦	15~17本/株

※有効茎数の8割程度が確保出来たら中干しを開始しましょう。

中干しの目安

- 粘質田 排水不良田
- 普通田 (乾田)
- 漏水田

●小さい亀裂ができる程度に繰り返す。
●中干し前に溝切りを行う。
●小さいひび割れが楽間に残り、足跡が残る程度。(ときどき走り水灌水を行う。)

●足跡に水が残っている程度。
●間断かんがいをを行う。